

第1学年 美術科学習指導案

場 所： 美術室

学 年： 第1学年

授業者：古屋 美那実

1. 題材名

「水と墨で表す“静”と“動”の世界 ～表現を味わう～」

A 表現(1)ア(ア)(2)ア(ア) B 鑑賞(1)ア(ア) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

1学年は、全体的に明るく活発で、学習や行事に真剣に取り組む生徒が多く見られる。美術科の学習でも、課題の内容や方法を理解して熱心に取り組む姿が見られる。表現の学習では、設定されたテーマを理解し、材料や用具を工夫して用いながら取り組むことができる。入学してから今までに、パステルやクレヨン、アクリル絵の具といった用具を用いた授業を行った。以上の用具を授業で扱うにあたって、題材の導入の時間に、用具に触れる時間を多く確保することで、自身の経験を振り返ったり、仲間から新たな表現を教わったりしながら、特性について実感を伴って理解できるようにした。そういった経験を踏まえて制作をすることで、イメージにあった用具の生かし方について考えを深めることができるようにしてきた。鑑賞では、仲間の作品に関心をもって鑑賞しており、仲間の意見に興味を持って聞いたり、作品から感じたことを自分の言葉で記述したりすることができる。

(2) 授業について

〔題材について〕

関係性 書写の経験のある生徒にとって、墨の描画材は親しみを感じやすい。

難易度 様々な用具を使って技法を模索することで、“静”と“動”に対する自分のイメージに合った表現を考えることができる。

必然性 普段は指定された文字を書くのみだが、本題材においては試行錯誤しながら表現を味わうことができる自由度から期待をもたせやすい。

多様性 “静”と“動”という言葉と墨絵の特徴から、それぞれのイメージを膨らませて試行錯誤しながら活動することで、多様な表現が生まれる。

本題材は、墨の特性（にじみ、かすれ、濃淡、筆の運び等）を生かした“静”と“動”のイメージを表す活動を通して、墨の色や技法等を基に言葉のイメージに合った表現について考え、試行錯誤しながら表したい表現を生み出す活動である。

墨は、小学校の頃から書写を経験している生徒にとって身近な素材である。普段の国語科で扱う活動においては、指示された文字を正しく整えて書く力を育成することを目的としている内容であるため、基本は制限された環境の中で触れていることが多い。しかし、本題材においては、筆をどのように扱うだけでなく、水との組み合わせや筆以外の用具についても触れることができるため、のびのびと自分の表現を模索することができる考えた。また、“静”と“動”という言葉からイメージを膨らませるようにするといったテーマを設定することによって、自分自身の経験から発想するだけでなく、他者との関りの中で比較しながら発想を広げることができるため、テーマについて深く考え、より試行錯誤しながら表現を追求することができる考えた。墨の特性や用具の違い、そしてテーマで扱う生徒一人一人の表現の多様さについて実感するとともに、面白さをもって自分のイメージにあった表現を追求してほしい。

題材における指導のポイントを以下のようにまとめた。

指導のポイント[TN1]	
導入の工夫	・題材のはじめに、作品の鑑賞をする中で活動に興味をもたせ、どうやったらできるのか、試行錯誤しながら技法に取り組めるようにする。
ワークシートの工夫	・現段階で自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることについてまとめ、整理することで、主題をもって構想できるようにするためにワークシートを工夫する。
材料・用具が試せる環境の設定	・墨を扱ってどのような表現ができるか、多様な用具を準備したり、試行錯誤する時間を確保したりすることで、自分のイメージに合った表現を追求できるようにしていく。
対話ができる環境の設定	・活動中は学習形態を班型で行うことで、自分以外の表現に自然と触れられるようにする。 ・iPadの共有の機能を活用し、仲間の表現を見て、自身の表現に活かすことができるようにする。

上記を実践することで、他者と対話しながら、生徒が自ら「問い」を生み出し、主体的に活動に取り組めるようにしていく。

3. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標[TN2]	
知識及び技能	・墨から生み出された形や濃淡などの効果が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉える。 ・水墨などの用具を活かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。
思考力、判断力、表現力等	・墨の濃淡や偶然できた形の特徴やイメージを基に主題を生み出し、技法と全体との関係等を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫等について考える等して、見方や感じ方を広げる。
学ぶに向かう力、人間性等	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく自分のイメージに合った表現などを基に構想したり、意図に応じて工夫し見通しをもって表したりして表現の学習活動に取り組む。 ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組む。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 墨から生み出された形や濃淡などの効果が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えている。 技 水墨などの用具を活かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。	発 墨の濃淡や偶然できた形の特徴やイメージを基に主題を生み出し、技法と全体との関係等を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫等について考える等して、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく自分のイメージに合った表現などを基に構想したり、意図に応じて工夫し見通しをもって表したりして表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4. 題材の指導計画（全5時間）[TN3]

時間	学習内容	観点別評価	問いを生み出すための工夫
1	- 授業内容を知る。 - 墨に触れ、試す。 - 墨でできた表現について共有する。	知 - 墨から生み出された形や濃淡などの効果が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えることを理解している。 【ワークシート、振り返りシート】 態表 - 墨の様々な表し方を意欲的に試している。 【振り返りシート、活動の様子】	目標設定 - 教科書の作品や、実際に墨に触れている表現を鑑賞することによって、興味をもたせたり、作品のイメージをもたせたりする。 方略計画 - 導入の中で自分のやるべきことを理解させる。 遂行① - 墨の表し方からどのようなイメージが生み出されたか、ワークシートにまとめることで、考えを整理できるようにする。 - ワークシートを共有することで、他者の表現を自身の表現を追求できるようにする。 - 様々な用具を準備することで、自身にあった表現を追求できるようにする。
2	- 墨でできた表現について復習する。 “静”と“動”についてイメージを膨らませ、主題を考える。	発 墨の濃淡や偶然できた形の特徴やイメージを基に自身の経験から主題を生み出し、構想を練っている。 【ワークシート】	遂行② “静”と“動”に対して自身の経験からイメージを膨らませることができるよう、ワークシートにまとめることで、考えを整理できるようにする。 - 学習形態を班型で行い、共有する時間を設定することで考えを深められるようにする。

3 4	・制作する。	技 ・発想や構想をしたことなどを基に、意図に応じて様々な表し方を試して身に付けた墨の生かし方を活用し工夫して表している。 【振り返りシート、試作の作品】 態表 ・墨から生み出された形や濃淡などの効果が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えることを理解しようとしたり、主題と表現の工夫について考えたりしている。 【振り返りシート、活動の様子】	遂行③・方略調整 ・振り返りシートを活用し、授業の中で考えたことや工夫したことを振り返ることができるようにする。 ・手が進まない生徒には、指導者が問いながら自身の主題を改めて自覚させるとともに、共有されているワークシートを見たり、他の仲間の活動の様子を見に行ったりすることで、表現に結び付けられるようにする。
5	・仲間の作品を鑑賞する。 ・制作した作品について振り返る。	知 ・墨から生み出された形や濃淡などの効果が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えることを理解している。 【ワークシート、活動の様子】 鑑 態鑑 ・作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫等について考えることができている。 【ワークシート、活動の様子、振り返りシート】	全体の振り返り ・仲間の作品を鑑賞する中で、自分の作品について振り返る。

6. 本時の授業

- (1) 日 時 令和7年11月29日(土)
 (2) 対 象 1年2組生徒 男子 16名、女子 19名 計35名
 (3) 指導意図

本時は、“静”と“動”のイメージを自身の経験から主題を見つけ、墨の特性を活かして表す時間である。前時までどのような墨の表現ができるか、鑑賞を通して知ったり、実際に墨に触れたりする中でどのような墨の表現ができるかを考えてきた。それらの学習を踏まえて、自分の表したい“静”と“動”のイメージを墨の濃淡や用具、余白などを工夫しながら追求していく。また、生徒が様々な表現を試すことができるようにしていくために、学習形態を班型で行ったり、前時に行った墨の表現についてまとめたワークシートを共有したりすることで、他者に考えに触れながら試行錯誤して活動できるようにしていく。

- (4) 展開 (3/5)

時間	○学習活動 ・活動の内容、指導のポイント	指導上の留意点
導入 5分	○本時の学習内容について知る ・前時の学習を振り返る。 ・授業の流れを知る。 ○本時の目標を確認する。	・本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝え、生徒が理解して取り組むことができるようにする。
本時の目標 ・墨の特性をいかして、試行錯誤しながら主題にあった表現を追求してく。		
展開 40分	○制作する。 ・意見や他者の作品を鑑賞したことをもとにしながら制作を進める。 ・授業終了の15分前から片付けをする。	・活動の様子を観察し、必要に応じて生徒への声かけを行う。(別紙の発問の構造図参照)
まとめ 5分	○まとめ ・片付けを終えた生徒から、振り返りシートを用いて学習を振り返る。 ・制作途中の作品を撮影し、記録する。	・ポートフォリオとしてまとめ、評価に生かす。

にじみ、濃淡、かすれ、筆の運び、余白等